

8月ESC発表（屋宜、論文化を条件）

2) 診療体制構築：

- (1) 院内心停止への取り組み：院内心停止ウツタイン登録への取り組み
⇒登録システム活用提案：METに関する取り組み、医療安全との連携、
2年間の成果：JRCPRグループで論文化。
（日循採択：吉川、田中、大谷、横山、篠岡2）6題
集中治療医学会：若松
論文（総論、CircJ横山）掲載された
【論文依頼】篠岡先生に依頼
※AHAに提出（吉川、篠岡、黒澤）、ESC発表（横山）

3) 最重症例への対応

- (1) 心原性心停止に対する低体温療法
5年間データ（420例）のまとめ★解析方法と結果をレポート→論文化
データフィードバックの依頼、総論CircJ（横山）掲載された
5年間のデータに追加するデータは、IRBで承認。
心電図（13施設中11施設分送付）、合併症（不整脈の種類）、NH3のデータ
前向き試験のIRB承認済。研究者へIRB資料配付、
（日循提出者：松崎、蘇我、田原、横山）
【IRB申請】申請書と承認書を配布、各施設IRB依頼（札幌医大長谷先生）
【会議】5月終了：前向き試験とAHA対策

論文に佐賀医大が抜けていて対策検討：執筆規定を作成する必要有り（横山）
投稿規定を作成

※AHAに提出（國分、田原、日大）
★論文化について
目的と方法を明確に（事務局へ提出）。解析をフィードバック
JRCPRとJ-PULSE-HYPOの担当者へ論文化を再確認、日本語で内容を送付しても
らい、支援する。

論文化できないテーマに関しては、担当者変更を含め再検討。
- (2) 全国ウツタインデータ解析：日循蘇生科学小委員会（JCS-ReSS）として
解析、支援 IRBへ提出（審査不要）、
※AHAに提出（田原、米本）
- (3) 不整脈：ニフェカラント、アミオダロン論文のレビュー

定例会第25回： 7月 7日 木曜 FAX室

第26回 議事録

厚生労働科学研究

『急性心筋梗塞に対する病院前救護や遠隔医療等を含めた超急性期診療体制の構築に関する研究』

日 時：2011年7月28日（木）15:30-16:30

場 所：FAX 部屋

参加者：（敬称略）野々木、嘉田、横山、米本

【J-PULSE 事務局】林

【議題】 データベース項目（嘉田先生コメント）、低体温（筈井先生からの質問）
論文化サマリ

1) 急性心筋梗塞症に対する救急システム構築へのアプローチ：均てん化、標準化

(1) 発症からの時間遅延と予後について：

⇒治療時間短縮への取り組みが必要：本年度は、各分担研究者におけるデータ利用
時間推移に関するデータ項目を提案。※班会議までに確定

発症から治療（PCI）までの時間推移を調査、アウトカムの検討（1年間）

共通のテンプレートを作成する⇒本年度はデータベース項目を作成する（前向き）

【作成にむけて】①項目を固定 ②班員に確認 ③IRBに申請（7/29 審議予定、6/22 提出、

修正回答 7/8） ④ソフトを確認（各施設）、CSVなどで共有化できるか確認

※心筋梗塞の診断基準を酵素の基準（トロポニン）班会議（6/13）で確認

☆データベース案を最終チェック（嘉田先生コメント）

☆データベースを院内で作成→業者と相談（エマテック）

☆各施設 IRB 依頼、キックオフを今秋目標

(2) 厚労省人口統計死亡データの2次利用結果に基づいた地域システムの検討：

市町村別の平均化搬送時間（循環器救急施設と地域役所との距離）

搬送時間が長く、予後が不良（循環器系死亡率）の地域が存在する

⇒ 本年度は要因分析を予定する。※AHAに提出（嘉田）、MAPの公開

ドクターヘリの100km圏のサークル掲載（嘉田、菊地）

*地図にドクターヘリ分布を記載したものをHPに掲載（菊地）

(3) 来院遅延に対する対策：アンケート調査報告と啓発用パンフレット配布

市民や開業医向けに『心筋梗塞に対する教育』ツールの開発、IT活用

⇒インターネットやHP活用（菊地）、J-PULSE ホームページを充実させる。

啓発ビデオ完成、今後コンテンツとして検討。※病院HPに掲載

新 CPR ビデオも作成した。

iPADに収録（モニター依頼）や携帯サイトで啓発できるように検討

※自己学習ツールとしても応用可能。班員配布済み（DVD）。

ビデオ学習後の評価方法を検討してみてもどうか。

市民公開講座で、質問形式で検討（嘉田、米本）

【論文化】アンケート結果【英語】（米本、嘉田） インタビュー結果【英語？】（土井）

AWS 湯浅先生、修正論文投稿準備中

(4) 循環器救急医療における遠隔医療の活用

モバイルテレメディシン：地域モデル、担当が日本光電となった。

新たな課題→震災時の通信網の確保に関する情報収集（衛星、成層圏 WiFi など）

地域病院間ネットワークへのモデル化（吹田市）を推進

⇒横浜市での12誘導伝送の検討、熊本・弘前でのモデル化、

花田先生が FOMA の画像伝送で 12 誘導心電図配信を検討する
テレビ会議導入、各パソコンで動作確認中（臨床研究開発）V-CUBE MaC 可能、
画像伝送可能 ※セキュリティを維持したままのポート設置を検討中。
8 月 ESC 発表（屋宜、論文化を条件）

2) 診療体制構築：

- (1) 院内心停止への取り組み：院内心停止ウツタイン登録への取り組み
⇒2 年間の成果：JRCPR グループで論文化。
（日循採択：吉川、田中、大谷、横山、篠岡 2）6 題
集中治療医学会：若松
【論文依頼】担当者に依頼、1 年間の期限とする、事務局支援
※AHA に提出（吉川、篠岡、黒澤）、ESC 発表（横山）

3) 最重症例への対応

- (1) 心原性心停止に対する低体温療法
5 年間データ（420 例）のまとめ★解析方法と結果をレポート→論文化
5 年間のデータに追加するデータは、IRB で承認。
心電図（13 施設中 11 施設分送付）、合併症（不整脈の種類）、NH3 のデータ
前向き試験の IRB 承認済。研究者へ IRB 資料配付、※参加意思の確認
（日循提出者：松崎、蘇我、田原、横山）
【IRB 申請】申請書と承認書を配布、各施設 IRB 依頼（札幌医大長谷先生）
評価委員会メンバー：住吉、菊地、花田
【会議】5 月終了：前向き試験と AHA 対策

論文の広島市民病院と佐賀医大対策検討：執筆規定を作成する

※AHA に提出（國分、田原、日大）

★論文化について

目的と方法を明確に（事務局へ提出）。解析をフィードバック

JRCPR と J-PULSE-HYPO の担当者へ論文化を再確認、日本語で内容を送付しても
らい、支援する。本日から 1 年を目標に。

論文化できないテーマに関しては、担当者変更を含め再検討。

・7/8 論文化確認メールを配信。

【論文化】J-HYPO 田原、藤、柏瀬、國分、笠岡

JRCPR 吉川、田中、若松

- (2) 全国ウツタインデータ解析：日循蘇生科学小委員会（JCS-ReSS）として
解析、支援 IRB へ提出（審査不要）、
※AHA に提出（田原、米本）

- (3) 不整脈 : ニフェカラン、アミオダロン論文のレビュー

<クラスタランダム化試験各 IRB 承認済み施設>

横浜市立

定例会第 26 回： 7 月 28 日 木曜 FAX 室

『急性心筋梗塞に対する病院前救護や遠隔医療等を含めた超急性期診療体制の構築に関する研究』

日 時：2011年10月12日（水）15:30-16:30

場 所：テレビ会議

参加者：（敬称略）野々木、横山、嘉田、米本

【J-PULSE 事務局】林

【議題】① Hypo, AMI システム説明会 ②市民公開講座

1) 急性心筋梗塞症に対する救急システム構築へのアプローチ：均てん化、標準化

(1) 発症からの時間遅延と予後について：

⇒治療時間短縮への取り組みが必要：本年度は、各分担研究者におけるデータ利用
時間推移に関するデータ項目を提案。

発症から治療（PCI）までの時間推移を調査、アウトカムの検討（1年間）

本年度はデータベース項目を作成する（前向き）：

⇒10/29 午前に説明会を開催。確認（配布物：出席者リスト、時間割、説明書）

(2) 厚労省人口統計死亡データの2次利用結果に基づいた地域システムの検討：

市町村別の平均化搬送時間（循環器救急施設と地域役所との距離）

搬送時間が長く、予後が不良（循環器系死亡率）の地域が存在する

⇒ 要因分析を予定する。※AHAに採択（嘉田）、MAPの公開

ドクターヘリの100km圏のサークル掲載（嘉田、菊地）

*地図にドクターヘリ分布を記載したものをHPに掲載（菊地）

(3) 来院遅延に対する対策：アンケート調査報告と啓発用パンフレット配布

市民や開業医向けに『心筋梗塞に対する教育』ツールの開発、IT活用

⇒啓発ビデオ完成をJ-PULSE ホームページに掲載（モリーオ佐々木、菊地）。

携帯電話コンテンツとして検討。AU野又さんと相談。

iPADに収録（モニター依頼）や携帯サイトで啓発できるように検討

※自己学習ツールとしても応用可能。班員配布済み（DVD）。

ビデオ学習後の評価方法を検討してみようか。

auのコンテンツとして啓発を検討→アンケート可能、アクセス件数

市民公開講座で、講演を坂本先生と田原先生に依頼

質問形式で検討（嘉田、米本）

【論文化】アンケート結果【英語】（米本、嘉田）

インタビュー結果（土井）：英訳検討

AWS 湯浅先生、修正論文投稿準備中：難航

(4) 循環器救急医療における遠隔医療の活用

モバイルテレメディシン：地域モデル、

地域病院間ネットワークへのモデル化を推進

◆現在使用のインターネット費用を業務として

センター予算に組み込みを打診（小川副院長と安田部門長へ説明）

⇒横浜市での12誘導伝送の検討、熊本・弘前でのモデル化、

花田先生がFOMAの画像伝送で12誘導心電図配信を検討する

テレビ会議導入、各パソコンで動作確認 V-CUBE 使用可能となった MaC 可能、

画像伝送可能 8月ESC発表（屋宜、論文化を条件）

2) 診療体制構築:

- (1) 院内心停止への取り組み: 院内心停止ウツタイン登録への取り組み
⇒2年間の成果: JRCPRグループで論文化。

(日循採択: 吉川、田中、大谷、横山、篠岡2) 6題

集中治療医学会: 若松

【論文依頼】 担当者に依頼、1年間の期限とする、事務局支援

※AHAに提出(吉川採択、篠岡採択、黒澤採択)、ESC発表(横山)

3) 最重症例への対応

- (1) 心原性心停止に対する低体温療法

5年間データ(420例)のまとめ★解析方法と結果をレポート→論文化

5年間のデータに追加するデータは、IRBで承認。

心電図(13施設中11施設分送付)、合併症(不整脈の種類)、NH3のデータ
前向き試験のIRB承認済。研究者へIRB資料配付、※参加意思の確認

(日循提出者: 松崎、蘇我、田原、横山)

【IRB申請】申請書と承認書を配布、各施設IRB依頼(札幌医大長谷先生)

評価委員会メンバー: 住吉、菊地、花田

【会議】10/29午前/前向きシステム説明会(システム完成、検証中)

確認(配布物: 時間割と参加者リスト、研究参加施設リスト

入力ソフトの説明書、研究内容のスライド

(IRBで使用したもので説明します)

論文の広島市民病院(大谷)と佐賀医大(本村)と決定: 執筆規定を作成する

*研究者一覧には全員載せる *症例登録数順に *横山先生3番目 *米本、長尾、野々木は最後に

※AHA6題採択(國分、田原、白井、松崎、蘇我、有元)

★論文化について

目的と方法を明確に(事務局へ提出)。解析をフィードバック

JRCPRとJ-PULSE-HYPOの担当者へ論文化を再確認、日本語で内容を送付してもらい、支援する。本日から1年を目標に。

論文化できないテーマに関しては、担当者変更を含め再検討。

・7/8論文化確認メールを配信。

【論文化】J-HYPO 田原、藤、柏瀬、國分、笠岡

JRCPR 吉川、田中、若松

- (2) 全国ウツタインデータ解析: 日循蘇生科学小委員会(JCS-ReSS) 12題AHAで発表(AHA3、ReSS9)

※AHAに採択(田原、米本 BEST ABSTRACT)

- (3) 不整脈: ニフェカラン、アミオダロン論文のレビュー 未
<クラスタランダム化試験各IRB承認済み施設>

横浜市立、山口大、札幌

AHA採択(JCS-ReSS)

JCS-ReSS Abstract Poster Session 3題 JCS-ReSS ReSS - Saturday 7題

JCS-ReSS ReSS - Sunday 2題 J-PULSE-Hypo Abstract Poster Session 2題

J-PULSE-Hypo ReSS - Saturday 2 題 JCS-ReSS & J-PULSE-Hypo ReSS - Saturday 1 題
計 17 題

※ReSS だけに限定しますと、日本からの発表は、40 題程度あるようです。
定例会第 30 回： 10 月 21 日 金 曜

4. シカゴ『循環器蘇生科学を語る夕べ』

循環器蘇生科学を語る夕べ 2010 のご案内

拝啓、先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

国際蘇生連絡委員会(ILCOR)によるInternational Consensus on CPR and ECC Science with Treatment Recommendations (CoSTR)が改訂された注目の2010年に、アメリカシカゴで開催されますAmerican Heart Association学術集会には、日本から蘇生科学に関する演題が数多く採択されました。今後日本からも蘇生に関するエビデンスが生まれてくることが大いに期待されます。

今回初めての試みではありますが、日本の循環器救急に携わる先生方にお集まりいただき、JCS-ReSS、JRCPR、JPULSE-HYPOの中からAHA学術集会で発表される演題をわかりやすく概説いただき、今後の研究にお役立ていただくとともに、懇親の場として活用いただければ幸いです。

お忙しい中とは存じますが、何とぞご参加いただきますよう、よろしく願いいたします。

敬具

世話人： 国立循環器病研究センター心臓血管内科
駿河台日本大学病院循環器科
熊本大学医学部附属病院救急・総合診療部

野々木 宏
長尾 建
小島 淳

日時： 2010年11月15日(月曜日) 18:30~20:30(受付開始 18:00)

場所： BARNES & THORNBURG LLP'S CHICAGO OFFICE
Suite 4400 One North Wacker Drive Chicago, ILL 60606-2833

Program: 開会の挨拶
熊本大学大学院循環器病態学 小川 久雄 先生

演題

- ①日本の循環器蘇生科学について 野々木 宏・長尾 建
- ②JCS-ReSSより 小島 淳
熊本大学医学部附属病院
- ③JRCPRより 篠岡 太郎
東京医科歯科大学附属病院
- ④JPULSE-HYPOより 蘇我 孟群
駿河台日本大学病院

軽食あり

閉会の挨拶
京都大学大学院循環器内科 木村 剛 先生

AHA2010シカゴ会合出席者

- | | | | |
|----|-------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 | Takanori Ikeda(Tsukada) | 池田 隆徳 | 代理：吉野 (杏林大学) |
| 2 | Yasufumi Oi | 大井 康史 | (横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター) |
| 3 | Yohei Otsuka | 大塚 洋平 | (山口大学大学院) |
| 4 | H.Ogawa | 小川 久雄 | (熊本大学大学院) |
| 5 | Asuka Kasai | 笠井 あすか | (駿河台日本大学病院) |
| 6 | S.Kasaoka | 笠岡 俊志 | (山口大学大学院医学系研究科) |
| 7 | Kazunori.Kashiwase | 柏瀬 一路 | (大阪警察病院) |
| 8 | Migaku Kikuchi | 菊地 研 | (獨協医科大学) |
| 9 | Kazuo Kimura | 木村 一雄 | (横浜市立大学附属市民総合医療センター) |
| 10 | Takeshi Kimura | 木村 剛 | (京大病院) |
| 11 | Kiyohiko Seino | 清野 精彦 | (日本医科大学) |
| 12 | Nobuaki Kokubu | 國分 宣明 | (札幌医科大学附属病院) |
| 13 | Sunao Kojima | 小島 淳 | (熊本大学医学部附属病院 救急・総合診療部) |
| 14 | Syozou Konishi | 小西 正三 | (大阪警察病院) |
| 15 | Taro Sasaoka | 篠岡 太郎 | (東京医科歯科大学附属病院) |
| 16 | S.Shirai | 白井 伸一 | (小倉記念病院) |
| 17 | H.Seo | 瀬尾 宏美 | (高知大学) |
| 18 | Taketomo Soga | 蘇我 孟群 | (駿河台日本大学病院) |
| 19 | Eizo Tachibana | 立花 栄三 | (駿河台日本大学病院) |
| 20 | Yoshio Tahara | 田原 良雄 | (横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター) |
| 21 | Masafumi Toh | 藤 雅文 | (横浜市立大学附属市民総合医療センター 麻酔科) |
| 22 | Ken Nagao | 長尾 建 | (駿河台日本大学病院) |
| 23 | Kei Nishikawa | 西川 慶 | (駿河台日本大学病院) |
| 24 | Hiroshi Nonogi | 野々木 宏 | (国立循環器病研究センター) |
| 25 | Mamoru Hase | 長谷 守 | (札幌医科大学附属病院) |
| 26 | Haruhiko Higashi | 東 晴彦 | (愛媛大学病態情報内科学) |
| 27 | Harumi Hirose | 廣瀬 晴美 | (駿河台日本大学病院) |
| 28 | Tetsuya Matoba | 的場 哲哉 | (九州大学) |
| 29 | Kunihiko Matsui | 松井 邦彦 | (山口大学医学部附属病院 総合診療部) |
| 30 | Masakazu Matsuzaki | 松崎 真和 | (駿河台日本大学病院) |
| 31 | Tsukasa Yagi | 八木 司 | (駿河台日本大学病院) |
| 32 | Naohiro Yonemoto | 米本 直裕 | (国立精神・神経医療センター) |

(50音順)

AHA-ReSS 2010
JCS-ReSS, JPULSE-HYPO, JRCPR
循環器蘇生科学を語る夕べ

		Group	Day	SessionType	PresentationTitle
Migaku	Kikuchi	CPR	13-Nov	ReSS - Saturda	School Teachers Can Effectively Instruct Children in Cardiopulmonary Resuscitation Using Personal Manikin and Instructional Video: Randomized Trial
Sunao	Kojima	JCS-ReSS	13-Nov	ReSS - Saturda	A Physician Onboard the Advanced Life Support Unit Has a Clinical Impact on Outcome of Witnessed Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest
Tsukasa	Yagi	JCS-ReSS	13-Nov	ReSS - Saturda	Efficacy of the Single Shocks Plus Immediate Cardiopulmonary Resuscitation by Emergency Medical Service Personnel After Out-of-Hospital Ventricular Fibrillation Cardiac Arrest
Yasufumi	Oi	JCS-ReSS	13-Nov	ReSS - Saturda	Effect of Pre-Hospital Airway Management Method on Outcomes in Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest
Tetsuya	Matoba	JCS-ReSS	13-Nov	ReSS - Saturda	Effect of Early Defibrillation on the Survival of Patients With Witnessed Cardiac Arrest From Ventricular Fibrillation in the Guideline 2005 Era in Japan
Kei	Nishikawa	JCS-ReSS	13-Nov	ReSS - Saturda	Effects of Dispatcher-Assisted Cardiopulmonary Resuscitation According to the AHA 2005 Guidelines for Cardiopulmonary Resuscitation
Ken	Nagao	JCS-ReSS	13-Nov	ReSS - Saturda	Efficacy of the AHA 2005 Guidelines for Cardiopulmonary Resuscitation After Out-of-Hospital
Takanori	Ikeda	JCS-ReSS	14-Nov	ReSS - Sunday	Circadian Variation in Out-of-Hospital Cardiac Arrests in a Japanese Patient Population: Analysis of a Nationwide Population-Based Registry 2005-2008
Hiroyuki	Hanada	JCS-ReSS	14-Nov	ReSS - Sunday	Impact of Cardio-Pulmonary Resuscitation by Emergency Medical Service Given Before Defibrillation on the Neurologically-Good-Survival in Cases With Out-of-Hospital Cardiac Arrest and With Ventricular Fibrillation
Kunihiko	Matsui	JCS-ReSS	14-Nov	ReSS - Sunday	Gender Difference and Outcome of Witnessed Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest: Impact of the Administered ALS Procedures Before Hospital Arrival
Naohiro	Yonemoto	JCS-ReSS	14-Nov	ReSS - Sunday	The effect of time to bystander cardiopulmonary resuscitation on survival from out-of-hospital
Taku	Iwami	JCS-ReSS	14-Nov	ReSS - Sunday	Chest-Compression-Only and Conventional Cardiopulmonary Resuscitation by Bystanders for Out-of-Hospital Cardiac Arrests With Public Access Defibrillation: A Prospective.
Shinnichi	Shirai	JCS-ReSS	16-Nov	Poster session	Comparison of a 30:2 compression-ventilation ratio with a 15:2 compression-ventilation ratio for patients who received bystander cardiopulmonary resuscitation after out-of-hospital cardiac arrest
Masafumi	Toh	JPULSE-HYPO	13-Nov	ReSS - Saturda	Relation Between Initial Arterial Blood pH Levels and Neurological Outcomes in Patients Treated With Hypothermia After Out-of-Hospital Cardiac Arrest: J-PULSE-Hypo Registry
Nobuaki	Kokubu	JPULSE-HYPO	13-Nov	ReSS - Saturda	Impacts of Rewarming Speed Differences on Outcomes of Therapeutic Hypothermia in Out-of-Hospital Cardiac Arrest: an Analysis in J-Pulse Hypo-Registry, a Multicenter Hypothermia Registry in Japan
Yoshio	Tahara	JPULSE-HYPO	13-Nov	ReSS - Saturda	Efficacy of Therapeutic Hypothermia for Out-of-Hospital Cardiac Arrest in Patients With Non-Ventricular Fibrillation: J-PULSE-Hypo Registry
Nobuaki	Kokubu	JPULSE-HYPO	14-Nov	ReSS - Sunday	Impacts of Percutaneous Cardiopulmonary Assisted Devices and Mild Hypothermia Therapy for Out-of-Hospital Cardiac Arrest in Patients From Multicenter Hypothermia Registry in Japan: J-Pulse Hypo-Registry
Asuka	Kasai	JPULSE-HYPO	14-Nov	ReSS - Sunday	Ammonia as a Biochemical Marker of Neurological Outcomes for Patients Treated With Therapeutic Hypothermia After Out-of-Hospital Cardiac Arrest. J-PULSE-Hypo Registry
Kazunori	Kashiwas	JPULSE-HYPO	14-Nov	ReSS - Sunday	Anemia, High LDH, Hyperglycemia, and Low pH on Admission Are Associated With Poor Neurological Outcome in Out-of-Hospital Cardiac Arrest Patients Treated With Hypothermia Therapy From Multicenter Hypothermia Registry in Japan: J-PULSE-Hypo
Shunji	Kasaoka	JPULSE-HYPO	14-Nov	ReSS - Sunday	Impact of Target Core Temperature on Neurological Outcome of Cardiac Arrest Patients Treated With Therapeutic Hypothermia
Taketomo	Soga	JPULSE-HYPO	14-Nov	ReSS - Sunday	The Relationship Between Time Interval From Collapse to Return of Spontaneous Circulation and Neurologically Intact Survival for Patients Treated With Hypothermia After Non-Ventricular Fibrillation Arrest Out of Hospital. J-PULSE-Hypo Registry
Ken	Nagao	JPULSE-HYPO	15-Nov	Ask the Experts	Cooling is Not Enough: We Need Extracorporeal Cooling!
Masakazu	Matsuzak	JPULSE-HYPO	15-Nov	Poster Session	Efficacy of Early Induction of Therapeutic Hypothermia for Patients with Return of Spontaneous
Shinichi	Shirai	JPULSE-HYPO	15-Nov	Poster Session	Impact of Hyperglycemia at Admission on Thirty Days Clinical Outcomes for the Out-of-hospital
Haruhiko	Higashi	JRCPR	13-Nov	ReSS - Saturda	Cardiac Arrest of Patients Acute Coronary Syndrome Undergoing Coronary Intervention Survival From In-Hospital Cardiac Arrest During Nights and Weekends From Japanese Registry
Taro	Sasaoka	JRCPR	14-Nov	ReSS - Sunday	The Detail of Individual Cardiovascular Disease on Inhospital Cardiopulmonary Arrest; From the Japanese Registry of CPR for Inhospital Cardiac Arrest (J-RCPR)
Taro	Sasaoka	JRCPR	15-Nov	Poster Session	Impact of Underlying Diseases on the Prognosis in Patients with Inhospital Cardiac Arrest; from the Japanese Registry of CPR for Inhospital Cardiac Arrest (J-RCPR)

循環器蘇生科学を語る夕べ 2010 議事録

於：BARNES & THORNBURG LLP'S CHICAGO OFFICE
Suite 4400 One North Wacker Drive Chicago, ILL 60606-2833
2010年11月15日 月曜日 18時30分～21時00分

- 熊本大学循環器病態学小川久雄氏より開会の挨拶。
- 国立循環器病研究センター心臓血管内科野々木宏氏より日本の循環器蘇生科学について、JCS-ReSS、JRCPR、JPULSE-HYPOに関する紹介。
- 以下、JCS-ReSS、JRCPR、JPULSE-HYPOより各1題ずつ、今回AHA ReSSで発表した研究内容について発表。
- JCS-ReSSより、熊本大学医学部附属病院小島淳氏から救急車医師同乗に関する解析結果の報告。
- JRCPRより、東京医科歯科大学附属病院篠岡太郎氏から、院内CPA患者の病態に関する報告。
- JPULSE-HYPOより、駿河台日本大学病院蘇我孟群氏から、non-VF患者における低体温療法の有効性に関する報告。
- 上記3演題に関し、活発な討論が行われた。
- 京都大学循環器内科木村剛氏より閉会の挨拶。

J-PULSE Member List for Visiting Arizona University

Name	Hospital	Speciality	AHA&ReSS 2010
Hiroshi Nonogi	National Cerebral and Cardiovascular Center, Cardiovascular Medicine	Cardiology, Cardiovascular Emergency Medicine	J-PULSE-HYPO, JCS-ReSS, JRCPR
Ken Nagao	Surugadai Nihon University Hospital, Nihon University School of Medicine	Cardiology, Cadiopulmonary Resuscitation, Emergency Cardiovascular Care	J-PULSE-HYPO, JCS-ReSS, Tokyo CCU
Masafumi Toh	Yokohama City University Medical Center Department of Critical Care and Emergency	Anesthesiology	J-PULSE-HYPO, JCS-ReSS,
Yasufumi Oi	Yokohama City University Medical Center Department of Critical Care and Emergency	Anesthesiology	J-PULSE-HYPO, JCS-ReSS,
Yoshio Tahara	Yokohama City University Medical Center Department of Critical Care and Emergency	Cardiology	J-PULSE-HYPO, JCS-ReSS,
Migaku Kikuchi	Dokkyo Medical University Cardiovascular Medicine	Cardiology, Emergency and Critical Care Medicine	J-PULSE
Haruhiko Higashi	Ehime University Graduate School of Medicine Department of Integrated Medicine and Informatics	Cardiology	J-PULSE,JRCPR
Taro Sasaoka	Tokyo Medical and Dental University, Medical University Hospital Department of Cardiology	Cardiology	J-PULSE,JRCPR

蘇生科学のタベ2012

シカゴ 2010
 オーランド 2011
 ロサンジェルス 2012

厚生科研J-PULSEグループ、日循環蘇生科学小委員会を中心に、ReSSで発表の先生方の内容を日本語でじっくりと解説してもらい、懇親と今後の我が国の蘇生科学の発展に寄与するということで始まりました。
 ReSSレポートの編集委員会を兼ねています。

救急蘇生に関するAHAとの連携 2012

For Resuscitation Science field in 2012 ReSS and AHA,

52 presentations from Japan (12%, 44/360抄録ReSS全体)
 (日本からAHA抄録857,42%採択率)

JCS-RESS 19 (14 ReSS, 5 AHA)

J-PULSE-Hypo 1(1 ReSS,)

JRCPR 1(1 AHA), J-PULSE-III,1(ReSS1)

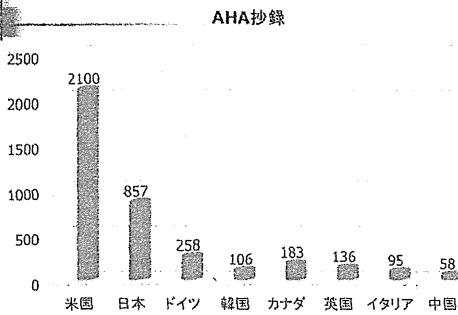
SAVE-J 2(ReSS1, AHA1), others 28(27ReSS,1AHA)

日本冠疾患学会 Edelson先生

日循2013 シンポジウム、JCS-RESS Bobrow先生

第6回J-ReSS 2013 東京、日本救急医学会A-ReSSとして開催

AHA抄録数 4444 採択率49%



循環器救急医療への取り組み(1)

Phase0 CCU設置して院内治療の充実
 1977年国立循環器病センター設立、
 救急依頼症例を搬入、AMI死亡率

20%→5%

Phase1 CCUネットワーク構築

1994年 北摂心筋梗塞症研究会設立
 発症実態調査 1997年、1998年

1997年 循環器病委託研究
 9指-2 循環器疾患の救急医療

1998年 大阪ウツタイン登録開始

CCU空床ネットワーク構築、
 救命士とホットライン(CCU, SCU, NCU)

1999年 循環器病委託研究11公-6

急性心筋梗塞症発症状況全国調査

2001年 大阪府救急医療情報センター

インターネット空床登録(CCU)

転機は2003年

救急医療のデータや国際発信、トレーニングシステムは、何も無いに等しかった。
 海外からは、nothing, 10 years ago in Japan
 と言われた。

AHA instructor courses in USA
 PULSE study in Washington DC:
 Dr. Becker and NHLBI
 ReSS in AHA in Orlando

5

すでにAHAは、エビデンスに基づいた優れた心肺蘇生法トレーニングシステムを立ち上げていた。

日本には、エビデンスなく、独自のガイドラインなし、院外心停止登録は開始していたがデータ解析はまだ。

「自分は院外心停止に対する取り組みを30年間行い、心停止予防対策に成果を上げた。君は何歳？30年がんばれるか？」シアトルCobb先生

10年で追いつきたい！！

6

循環器救急医療への取り組み(2) 方向転換

- Phase2 心原性院外心停止の実態調査と対策
2002年 心肺蘇生法講習開始
JCS-CPR普及委員会
2003年 AHA(BLS/ACLS)コース開始
- Phase3 介入試験と情報発信 循環器病委託研究14公-7
J-PULSE研究、ウツタイン登録を基盤
- Phase4 エビデンス発信と国際ガイドラインへの関与
2007年 J-PULSE II モバイルテレメディシン
2007年 JCSがAHA-ITC契約、
循環器救急医療委員会、
蘇生科学小委員会、
専門医取得時ACLS必須化
2010年 J-PULSE III 低体温療法無作為化

留学、国際学会発表は良い機会

ついでに施設見学と大御所をつかまえる

自分たちのデータは大事、売り込む

苦しくても背伸びする

招聘のチャンスを作る

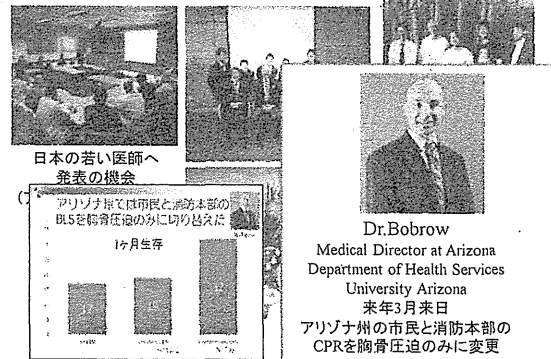
若い人にチャンスを与える

8

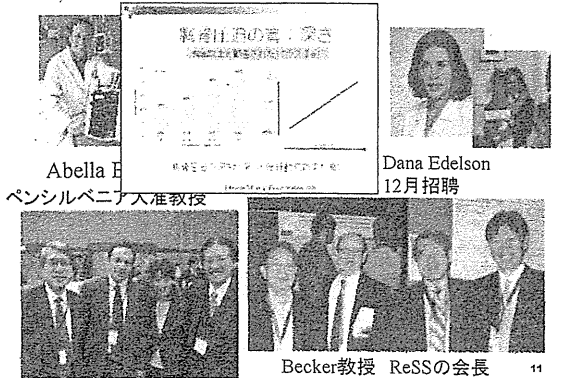
日本からエビデンスを発信する 国際的な連携作り



若い研究者とともにアリゾナ訪問



シカゴ大学チーム AHA時に訪問してから交流開始

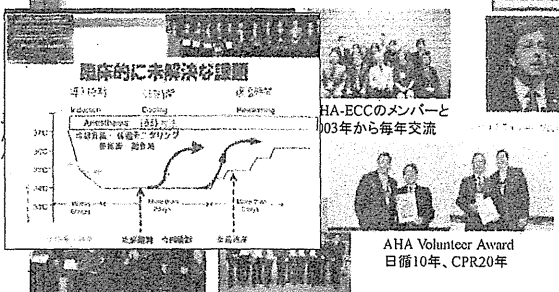


シアトルの救急システム



AHAとの交流

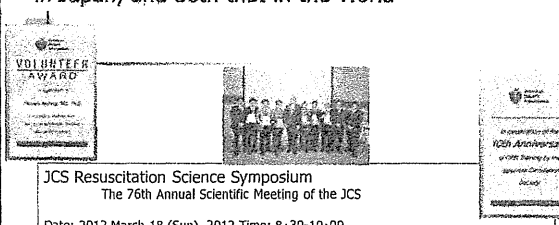
トレーニング、ReSS、データ発信、ILCORガイドライン



AHA Volunteer Award
日備10年、CPR20年

13

the 10th Anniversary of CPR in the JCS, 20th that in Japan, and 50th that in the World




JCS Resuscitation Science Symposium
The 76th Annual Scientific Meeting of the JCS

Date: 2012 March 18 (Sun), 2012 Time: 8:30-10:00
Fukuoka Sun Palace (next to Fukuoka International Congress Center) Program:

Chairpersons:
Hiroshi Nonogi, MD (Shizuoka General Hospital, Shizuoka)
Migaku Kikuchi, MD (Dokkyo Medical University, Tochigi)

- Lecture 1: the 20th Anniversary of CPR Education from Hyogo to Japan
Tsuayoshi Kawamura, MD (Kawamura Cardiovascular Clinic, Hyogo)
- Lecture 2: the 20th Anniversary of CPR Education from Iwate to Japan
Katsuhiko Hiramori, MD (Japanese Heart and Blood-Pressure Research Promotion Foundation, Iwate)

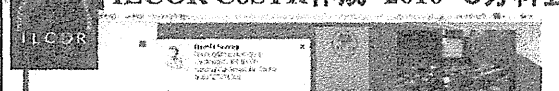
心肺蘇生と救急循環処置に関する国際コンセンサス(CoSTR2010)作成と国際蘇生連絡委員会(ILCOR)1992年設立



欧州蘇生協議会 (ERC) 1988年
 アジア蘇生協議会設立 2005年
 ILCOR加盟 (2006年)
 JRC (日本蘇生協議会) 2001年
 AHA 1924年
 ラテンアメリカ蘇生協議会 (IAHF)
 オーストラリア、ニュージーランド蘇生協議会

カナダ心臓脳卒中基金 (HSFC)

ILCOR CoSTR作成 2010 6分科会



毎月1回Task-Forceでインターネット(Webinar)・電話会議で

ACS/MI Task Force: Writing Group 12名
Worksheet Author 25名(うち日本から3名)

年2回の会議でWS作成者が報告し、Task間での意見交換を行い、査読/修正が行われ最終採択。
WS作成者は日本から合計21名が参加

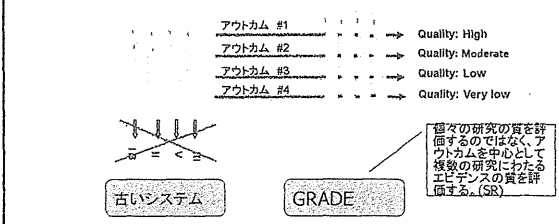
2015年ILCOR: エビデンスの質の分類を 変更GRADE使用

“エビデンスの質”を4つのカテゴリーに分類する。

エビデンスの質	最近の定義 (JCE)*	以前の定義 (BMJ)
High ●●●●/A	真の効果は効果推定値に近いという確信がある(*)。	今後の研究によって効果推定値に対する確信性が変わる可能性は低い(very unlikely)
Moderate ●●●○/B	効果推定値に対し、中等度の確信がある。真の効果は効果推定値に近いと考えられるが、大幅に異なる可能性もある。	今後の研究によって効果推定値に対する確信性に重要な影響がおよぶ可能性が高(likely)、推定値が変わる可能性がある(may)
Low ●●○○/C	効果推定値に対する確信には限界がある。真の効果は、効果推定値とは大きく異なるかもしれない。	今後の研究によって効果推定値に対する確信性に重要な影響がおよぶ可能性が非常に高(very likely)、推定値が変わる可能性が高い(likely)
Very Low ○○○○/D	効果推定値に対しほとんど確信がもてない。真の効果は、効果推定値とは大きく異なるものと考えられる。	あらゆる効果推定値が不確実である(very uncertain)

相原: GRADEハンドブック(ver. 3.2)

以前の評価方法や勧告から GRADEへ: アウトカム中心



アウトカム #1 → Quality: High
 アウトカム #2 → Quality: Moderate
 アウトカム #3 → Quality: Low
 アウトカム #4 → Quality: Very low

古いシステム (Quality: High, Moderate, Low, Very low)
 GRADE

個々の研究の質を評価するのではなく、アウトカムを中心として複数の研究にわたるエビデンスの質を評価する。(SR)

相原: GRADEハンドブック(ver. 3.2)

他システムと比較したGRADE の長所

1. ガイドライン開発を代表する人たちが国際的に共同して作成や評価をしている。
2. エビデンスの質と推奨度を明確に分離している。
3. “患者にとって重要なアウトカム”について検討している。
4. エビデンスの質の評価基準を明確にしている。
5. エビデンスから推奨への移行プロセスを明確にしている。
6. 推奨を作成する際に患者の価値観や好みを考慮することを明確にしている。
7. 臨床医、患者および政策立案者に対して、推奨度の解釈を明確にしている。
8. システマティック・レビュー、医療技術評価および診療ガイドラインに役立つ。

- 診療ガイドラインは、入手可能な最良のエビデンスに基づくべきである。
- 意思決定や判断において透明性が鍵となる。
- GRADE アプローチが推奨される

- simple, transparent, systematic
- 勉強会をスタートします

2015年ガイドライン改訂へ 日本からのエビデンスを多発

ガイドラインは変えられる
海外の研究者と交流

ガイドライン作成
英語でのプレゼン能力、
ディベート能力、レビュー能力、
若い力が必要

心原性心停止に対して 循環器医と救急システムの連携で救命対策



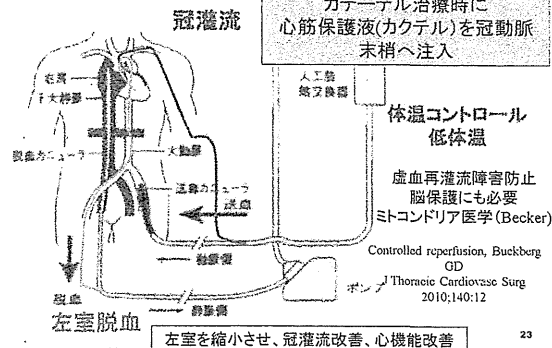
CPR, AED, PCPS, 再灌流療法、低体温療法
除細動抵抗性VF(ニフェカラン・アミオダロン)

BLSとACLSの統合、循環器
医と救急医の連携が必要

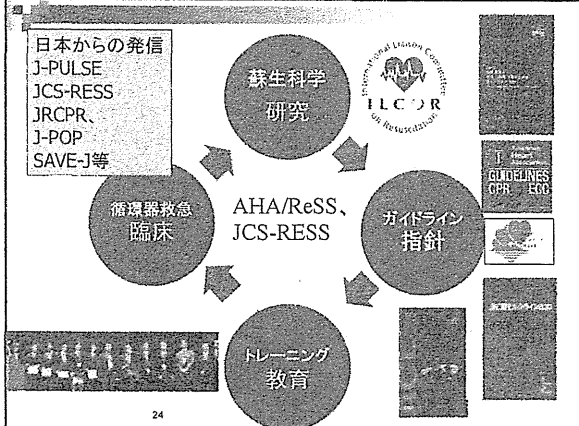
22

今後の開発課題 心拍再開後・重症心原性ショック例への対策

PCPS, IABP, 再灌流療法では救命困難



23



24

5. 海外招へい

日本からエビデンスを発信する 国際的な連携作り

Arizona: Ewy, Kern, Berg
シカゴ: Cobb, Nichol
シカゴ、ペンシルベニア: Abella, Becker
AHA President Tomaselli
仏: Spaulding
LA: Buckberg

アリゾナ大学Ewy教授、Berg教授、Kern教授

AHA会長とAHA-ECCメンバーとの会合

シカゴ大学との交流: Abella先生、Edelson先生

Abella BS
Dana Edelson
2012年12月招聘
Becker教授 ReSSの会長

救急蘇生に関する特別講演会のお知らせ

・日 時 平成24年12月17日(月)
午後7時-8時

・場 所 静岡県立総合病院6Fつつじホール

・講 師 **DANA PERES EDELSON**先生(シカゴ大学)
『Cardiac arrest: the challenge of CPR and resuscitation quality』
～心停止に対する心肺蘇生法と蘇生の質向上への挑戦～
(同時通訳、参加費無料)

2010年の蘇生ガイドライン改訂に大きな影響を与えたエビデンスを作成された方で、BLSの重要性について素晴らしい研究をされています。医師、看護師、救命士、医療従事者の方々の参加をお待ちしています。

●講演終了後、1Fけやきホールで意見交換会(会費2000円)があります！奮ってご参加ください。

シカゴ大学の全病棟にQ-CPR付きの除細動器を設置して、全てのCPR例の解析を行い、チームでフィードバックを実施

胸骨圧迫の質の評価が重要
中断時間(0秒以内)クラスⅡ

胸骨圧迫の質: 深さ
胸骨圧迫の深さ(5cm未満)と胸骨圧迫の深さ(5cm以上)

質の高いCPR
2005年よりさらに胸骨圧迫の重要性

100% 中断時間 連続実施率


100% 100% 100%

少なくとも5cm深さの圧迫
少なくとも100回/分の圧迫

心拍再開後ケアを学ぶ


12月13日日本冠疾患学会 東京

10:00-10:10	ワークショップ開催にあたり 野々木 宏
10:10-10:30	心拍再開後ケア総論 長尾 建
進行 長尾 建	
10:30-11:00	院外から救急室までの連携と補助循環: LUCASとPCPS 長谷 守、伊藤 賢敏
11:00-11:30	低体温導入方法: 開始時期と方法、冷生食使用の実際 長尾 建、田原 良雄
進行 長谷 守	
11:30-12:20	低体温維持方法: 体表面(横山広行)、PCPS(長谷守、有元秀樹)、KTEK(長尾建)、カテーテル(笠岡俊志、白井伸一)、ME(三木隆弘)
進行 横山 広行	
12:30-13:10	ランチョンセミナー
Edelson先生: "Resuscitation with Feedback and Debriefing Improves CPR Quality and Survival in patients with in-hospital cardiac arrest"	
進行 白井 伸一	
13:15-14:00	企業デモンストラーション(5分ずつ)
進行 田原 良雄	
14:00-14:30	低体温、補助循環、PCIの統合 白井伸一、伊藤賢敏
14:30-14:45	脳機能評価方法 伊藤賢敏、長尾 建
14:45-15:00	標準化と推進について 武田 聡
15:00	まとめ 長尾
15:00-15:30	機器説明(各ブース) 最終16:00



救急蘇生に関する特別講演会のお知らせ

- ・日 時 平成25年3月18日(月)
午後7時-8時
- ・場 所 静岡県立総合病院6Fつつじホール
- ・講 師 **Bentley J Bobrow**教授
(University of Arizona College of Medicine)



『The new resuscitation system for out-of-hospital cardiac arrest in Arizona: the challenge of the Save Hearts in Arizona Registry and Education (SHARE) program』

～院外心停止に対する新しい蘇生システム:
アリゾナSHAREプログラムの挑戦～



(同時通訳、参加費無料) www.azshare.gov

アリゾナ州における院外心停止に対する市民・医療従事者の心肺蘇生法をガイドラインに先駆けて変更し、救命率向上に救命救急士とともに活躍され、世界が注目している方です。

医師、看護師、救命士、医療従事者の方々の参加をお待ちしています。

●講演終了後、1Fけやきホールで意見交換会(会費2000円)があります！
奮ってご参加ください。

アリゾナ州では市民と消防本部の BLSを胸骨圧迫のみに切り替えた

1ヶ月生存

Category	N	1ヶ月生存 (%)
no CPR	-	17
Standard CPR	N=1232	19
Compression only	N=798	32

Dr. Bobrow
Professor of Emergency Medicine
University of Arizona College of Medicine, Phoenix, Arizona
Medical Director at Arizona Department of Health Services
University Arizona
来年3月18日静岡県立総合病院講演
アリゾナ州の市民と消防本部のCPRを胸骨圧迫のみに変更

9

6. 心筋梗塞データベース